



ご注意

- ・合意のない性行為のシーンがあります。
- ・攻めが自慰するシーンがあります。



フェルメート

チェスを虐めることに快楽を見出す厄介な人。
可愛いものが大好き。チェスの顔を見ると癒されるらしい。
この漫画のフェルメートはチェスの事を実験台兼ラブドールとしか認識してないぞ！



チェス

本名はチェスワフ・マイエル。
…が専らあだ名でしか呼ばれない。
色々と不運な少年。(成人済)
今日も今日とて拷問を受ける。
この漫画ではエッチな目にも遭う。
かわいいから仕方ないね。

ラブロ・
フェルマート・
ヴィラレスタは

僕



僕の
大事な大事な
可愛いチエス

純真で純粋で
素直なチエス

チエスアア・マイエル
という少年を愛している



彼も僕のことを
父や兄の様に思っ
て信頼してくれて
いる

そんな彼が
可愛くて仕方が
なかったから
世しみな
愛情を注いできた

をいつも喜ばしい事だ



僕は心の底から
ナユスを
愛している

笑った顔も
拗ねる態度も

怖がる姿も
泣き声も……

今までの記憶すべて

「いつからか僕は
彼の全てが見たい」と願っていた



笑った顔だけじゃない
もつと見たことのない
種々な表情

恐怖で引きつった顔や
苦痛で歪んだ顔
そんな表情の彼は
きつと魅力的だろう



首を絞めたら
どんな顔をするのか
目を抉ったら
どんな声を出すのか
色々試したい

僕にも案
ませませ！
八八八
分かった

彼を何にしても
死なない体
にできれば
どれほど
良いだろうか



しかしそうは
思ってもその欲望が
周りの者にバレて
しまつては警戒され
僕は彼と一緒に
いられなくなる

僕は彼を監視するなど
一切見せずに
善良な保護者として
振る舞い続けた

ところが二三年
転機が訪れる

とある船上にて
黒金術師が集まり
悪魔の召喚を試みた
結果……

僕らは
不老不死となった

更に辛いことに
ある男の非道な行いに
より自然を流れて
ナユスと二人きりで
暮らせるようになった

僕の望む
境地が、祝福が
全て与えられた



私いよ事とは
私がいよつとから
私に帰る事
私にならんでしょ？
ああ、いい事では！
どういふ事では！



二人きりでは
周りの目など気にする
必要はない

僕はようやく
自分の欲望に忠実に
生きれるようになった

最初こそは
実験と称して
遊んでいた

しかし回数を重ねると
見飽きてしまい
実験だけでは
物足りなくなってる...

フエー！
フェルマート？
どうしたの...？
ねえってば...

もっと愛んだ顔が
見たくなくて

だから僕は

いやッ

痛い...

やだあッ
やだあああ

やだ
やだ

やだ

やだ

やだ

僕は

やだ

ごめんなさい
ごめんなさい

もう実験なんて
やだって
言わないから

やだ

やだ

我慢
言わないから...

やだ

許して...
お願い...

やだ...

大事に育ててきた
チエスを犯した

ズンッ

ズンッ
ズンッ

無理矢理にだ

「愛している」と
言う感情とは
裏腹な行動

いたい...
いたいよう
やだあ...

なんで...
どうして

セックスの最中
ずっとチエスは
泣いていた

お父さん...
お母さん...
誰か...

痛かったのか
痒かったのか
それらは分からない

合意の無い
行為

何も知らない
子供に種い稼取を
強く最低な行為だ

でも僕は
幸せだった

あんなに気分が
高まったのは
久しぶりだった

だってまた一つ
チエスの可愛い
見れたのだから

そうさ
僕は幸せ者だ

僕は恵まれている

……チエス

まったく……
これくらいのも
事で参るなんて
情けない

これでは全然
家騒にならない

ただ背中を火で
炙っただけで
言うのに

一番前に
行われていた
魔女狩りでは
全身火炙りにされて
いたのですよ？

そんなに
のたうち回られては
脱走も出来ないじゃ
ないですか

……う

おんねん……







あー！
今日のチエスも
可愛かった
このシャツは
チエスの苦痛の
化身として
とっておこう



…脇の辺り…
抜け逃げた
汗の匂いにする…



熱さ故の汗なのか
それとも
恐怖による
冷や汗なのか…



…
興奮してきた



…チエス

火に怯える君は
まるで
小動物のように
可憐だった



紺色の瞳が
染まる様子が
恐ろしいほど
美しい



離れたりしなければ
もつと君の体を我が
駆け巡るはずだったんだ
でも君が
隠れちゃったから
上手く火が
まわらなくて…



もつと悲痛な声を
かっつぱい聞きた



だからつい
「許けない」なんて
酷い事を
言っちゃったんだ

ゴメンね
チエスね



でもチエスが
謝ってきた時の
あの表情！

ああそんな目を
するのなら

僕の元から
離れればいいのに

もっと僕に
いいのには

……そんな事
出来ないのが
チエスだけだね

アア！

乳首赤ると
どんな声
出すのだろう

まだちゃんと
弄ったこと
無いんだよね

チエス絶対
弱いでしょ

しゃがむチエスの
覗けたシャツから
覗く乳首エロかったな

思い出しただら
余計にムラムラ
してきた

チエスの悲鳴の
余韻に浸りたいから
一人になつたけど……
あの場で犯してから
戻れば良かったよ

そろそろ
セックスで悦ぶように
チエスの身体を調教
していこうかな！

もん
もん

でもなあ
無理矢理入れられて
可憐いんだよね



…やっぱり

チエスを
潰めた後に
扱くの最高だな

向こうにいる時から
チエスをオカズに
シゴキ事はあつたけど

あくまで妄想での中で
チエスを潰めて絶して…
抜いていたからなあ

それが今や
妄想ではなく
現実だ

あー…
毎日毎日
チエスを潰めて

気が向いた時は
チエスとセックス
出来るなんて…

僕は本当に
幸せ者だなあ

この興奮が冷め止まぬ
内に実験の様子を
したためのなれば

下

ふん…

はあ…

はっ

自分の勝手に
あの子の身体を
好き勝手にできる…



僕にとって
今の環境は
天国ではない

まあ！もっとも
チエスにとっては
地獄だろうが…



チエスの
気持ちなんて
構うものか

僕さえ楽しければ
それでいい



あの頃の
両りの目を
気にしながら
子守をしていた
僕とはおさらばだ

僕はもう二度と
自分の欲望を
抑えるような
真似はしないさ



でもさっさとチエスは
兄を父として
振る舞っていた頃の
僕を求めているん
だろうなあ



昔の優しい僕を
彼はずっと待っている
戻れるかと願っている

だからあの子は
戸惑いつつも
大人しく耐えて
傍にいてくれる

その優しさが
演技だったとは
知らないで…



あんなひどい事を
されてはいるにも
関わらず

たまに訓練士を
殴る舞ったり
無邪気に高ふんだ
無邪気に高ふんだ

きつと僕から
愛されていると
再認識できると
嬉しいのだから

えへへっ
ありがとっ

その様子が
とても可愛いで



そんなチエスが
好きで好きで
たまらない



僕は前よりもっと
あの子の胸に
なっっている

四六時中
あの子の事を
考えている

まるで恋を
しているようだ

恋する乙女って
こんな気分だろうか

チユスは
魅力的な子だ

まあ僕のこの感情はも
恋とはまた違うけども
。。

可愛いし
賢いし
従順で！

でも僕が好きなのは
性格や声や顔だけじゃない

小さな身体にも
魅力が詰まっている



あの子の肉体は
素晴らしい

何をしても
どれほど壊しても
元通りになるから……
という理由だけではない

チエスの
異女を
奪ったあの日……

チエスと一つになって
分かった事があった

チエスの肉体は
とても具合が
良かった

名器と言うべき
だろうか

温かく柔らかい腸壁

更に不死者の特性故か
彼の身体は壊がった分
元に戻ろうとする
力が強い

小さくて
喘れそうなる
薄い胴体

その為か激しく
僕のペニスを
締め付ける

僕が突く度に
入り口がキュッとか縮まり
奥はデコボコとうねる
腸壁自体に意思がある様だ

……勿論
素晴らしいのは
中だけじゃない

細くてすぐに
折れそうな
四肢

それできて
程よく
肉付きの良い
柔らかな身体

何度ヤツでも
縮くならず
よるで

常時処女を相手に
している様だ

彼の身体は
セックスに対し
全く慣れなかった

未発達な身体は
大人の僕を
受け入れる度に
小さな悲鳴を上げる



いつも行為の度
苦しそうに息を
詰まらす

目からは
涙がこぼれ落ちる

強く締め付け
下肢の膝子は
まるで侵入者を
拒んでいるようだ

正直締め付けすぎて
キツいと感ずる事も
あるが……

その様子が大好きだから
僕はいつもう無理矢理
犯してしまおう

チエスの尊厳を
踏み潰しているようで
遠く興奮するからだ

それだというのに
黙って我慢して
くれている
辛くて堪らない
だろうに
セックスさせて
くれる……



僕にとってチエスは
何でも受け入れてくれる
優しく麗しい天使だ

男の子の身体だから
妊娠する事はなく
中出しし放題だし……

食べ物を与えずとも
死にはしないから
常にお腹の中は
空っぽで満腹だし……



わっほーい

ああー！
あの子を
不死者にして
本当に
良かったあー！



お姫様の様に抱いてあげたらまた違う反応を見せてくれるだろう

彼の体はまだ多くのボナンシヤルを秘めている



でもいつかは優しく抱いてあげても良いかな
一回くらいチエスとセックスしたいなあ



ただ今ほど必要無い

この状態を僕はまだ楽しむ

日頃は僕の事をなんでも受け入れるチエス

しかしセックスの時のあの締め付け具合...まるで僕の侵入を拒む様な体の反応

言葉には決してしないが唯一のチエスの抵抗

チエスから無意識に拒絶されていると感じられるあの時間

何よりそれが好きなのだから...

そんなことを
思いながら

チエスど
毎日楽しい
生活を送っていた
ある日

僕もね
フェルマートの僕に
ずっと居たいんだ

でも…その為にも
一つお願いを
聞いてくれる？

チエスが僕に
お願いしてきた

チエスが僕に
お願いする
なんて珍しい！

聞いてやるか

！お願い？
何でしょう？

えっ？

？

あっ…あのね…

僕…もう
フェルマートと
セックス
したくないな…





自分の気持ちを
はつきり伝える
チエスに
驚いたのだ



気持ち悪いと言われ
酷くショックを受けた

言葉では無い



彼は最初こそは
嫌々言うが
段々ど何につれ
言わなくなってくる

賢いチエスの事だ
自分の思いを正直に
言った方が面倒な事に
なるって分かって
いるらしい

フエラチオ
をっん
えらい

だからチエスは
自分の気持ちを抑えて
何も言わずに
僕の手を握る事
に合ってくれる

いやフ
無理無理

フエラチオが
無理なら言
付かなくて
かたじけな
いでしょう

after

before



余程我慢
ならないのだらう

そんなに
嫌だったのか

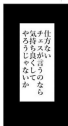


そのチエスが
気持ち悪いと言った





それはつまり
「僕とする
セックスが
気持ち良ければ
問題ない」と
いうことでは！



仕方ない
チエスが言うのなら
気持ち良くして
やろうじゃないか



……正直
行為の度に痛がる
チエスの反応を
まだ味わって
いたかったが

そろそろ潮時
だったか



誰でもない
愛するチエスの
「お願い」だからね！

……まあ
それにしても

今日のチエスは
珍しくよく喋る
の。





そもそも
あんなの保護者から
される行為じゃないし

気持ち悪く
感じるのは
当然だろう

HAHAHA

……でしょうね！

今更すぎるよ
チエス……！

神妙な顔をして
馴れてくるチエスを
思い出す度に
笑えてくる



おまけに
わざとチエスが
痛がるように
セックス
してきたんだ
ろくに演技もせず
挿入られるんだ！
痛い！に決まっている

むしろよく今まで
耐えていたとさえ
思うよ



チエス本人は
あれで
思っていないのか

君は自分が
思っているよりずっと
感情が顔に出ているよ



それに薄々
気付いてはいた

口には出さないが
心の中ではやめて
思っているのだろうか

さらに僕の事
面倒な男！
身勝手な男だと
思っているなど……

チエスの僅かな
表情の変化で
なんとなく
分かってしまう



だから僕も
頑張って
教えるつもりさ

でも今回ばかりは
あの子が勇気を出して
言ってきたんだ

チエスの意識が
飛んでしまうくらい
気持ち良い
セックスをね



チエスは
他の人にでも
と言ったが

君の身体を
知ってしまったら
そこらの娼婦では
満足できないよ



チエスの備けた顔は
きつとすこく魅力的
なんだろうな



もし！彼を
悦ばす事が
できたとして

ふふ！
チエスはいったい
どんな顔を
するのだろうか



ただでさえ
チエスの声は
官能的だから！
あの声で
喘がれたら
腰が止まらなく
なるかもしれない



喘ぎ声なんか
だしてくれば
もう最高だよ
ね



あ

あ

頭がおかしくなるくらいに気持ちよくなって



ア

あ

そうして二人で尻尾に尻尾まくって



もつと...
僕のなか

ズボズボして...ツッ

あんツ...
フエルズート

喉が
君の姿が
見てもたい

喉が
君の姿が
見てもたい

奥の方
突いてス



こうしては
早く行動せねば



いなんて
言ってくれたリして

オキ

オキ



ツクツク
ツクツク
してきた

いつかは優しく抱いて
快楽を覚えてやる
…とは思っていたけど

きつと今が
その時なんだ



子供の希望は
叶えてあげるのだからね
保護者の務めだからね



自分で言ったんだから…
後悔しちやダメだよ
…ナムス

…その為に僕も
頑張らないとなあ

そして

僕はチエスをどう扱はせるか頭を悩ませる日々が始まった！

チエス



悪いけどお茶入れてくれますか？

今ちょっと手が離せなくて

部屋に持ってきてくれますか？

とは言ってもお茶はついていない

！どうしたのその本お勉強するの？

うん分かった

ええ

ほ……

せつかくならば自分が得意な分野で勝負したい

何の本？

秘密です

今まで培ってきた僕の知識を役に立てるチエスだ



ふっ……

はあ……
高い買い物
だったな

でも……
仕方ないか

薬の材料なんて
易々と手に入ったら
まずいもんね

僕は

薬を作つて
彼を殺ぼすと決めた

恐らく彼は一度
恐怖や嫌悪感を
覚えるといつまでも
引きずつてしまう……
その感情に
引っ張られやすい
そんな精神の持ち主だ

セツクス
だって同じだ

最初突つた時の
恐怖感・嫌悪感が
無意識下に残って
いるのかもしれない

その為セツクスに
対し以上に身構えて
しまうというが……
怖いと思つて
身体が強張つて
しまう

そして筋肉が
強張るものだから
余計に痛さを
感じる

だからテクニクだけで
気持ちよくさせようと
しても感情が邪魔をして
快楽は感じないだろう

そういつた事を考慮し
薬を使つて
恐怖感を取り除き
筋肉を解してから
快楽を与えるという
考えに至つた

既に世の中に出回っている薬を使おうとも思ってたが

世の中に出回っているものには相応品も多い

それこそ麻薬とも変わらぬものもある

せつかく
程使うのならば
程よい効果が
得られる
薬が良い

「ハッ、ハッ」

千エス！

チエスに
よく分らない
ものは
飲ませたくない

摂取させて暴れたり
相手をさせては困る



その為自分で作って
効用を上手く調整できる
…そんな薬を作ろうと
考えたのだ

解薬と呼ばれる類のが…
薬を作った事はないが…
解剖や他の錬金術師から
きつった知識が有れば

だって僕は…
門弟だったのだから





僕はその当時
ノイエル家当主だった
知匠から種々々な
知識を授かった

知匠…
チエスの父親だ



錬金術師の名の
知匠では名の
職工厨には優秀な
在籍していた



ノイエル家は
薬学に秀でた
錬金術師の家系
だった



わはは

…そんな訳で
一応僕は薬作りの
プロフェッショナル
である

だからこんな
薬めいたものを
作るなんて何てこと
ないさ！



直接達から
依頼を受けて
麻薬めいた薬を
作る者もおり

僕もそんな類の
薬の研究に手を
付していた
時もあった

…もつとも
チエスは
自分の家で何が
作られていたか
なんて知りも
しないけれど

僕作ったものさ



チエスの淫靡な
姿を見る為だ

それに成功したら
高く売れるだろう
作るにあたって
二つもメリット
がある

早く売れたら
チエスに何か
あげようって



チエスの父親も…

夢にも思わなかった
だろうなあ

まさか弟子の手で
息子が実験台に
されるばかりか
凌辱までされて
しまうなんて…





可愛くて健気な
チエスと遊ぶ為!
研究頑張ろうつと

ふふ……

僕は研究を重ね
薬の開発に動しんだ



君は自分の家系が
受け継いできた
知識によって
快楽を教えられるとも
知らないで……



チエスに摂取
させる前に
治療も欠かさない

実際に世に
出回っている
そういう類の薬と
比べたりもした

研究の合間には
僕自身もちよつとは
体力が付くよう
運動をしてみたし

僕用に精力剤も
作った

子供を買おうような
変態共に恥をしのんで
テクニツクを
聞いたりもした

よく僕の子が
死んでしまったら
おれに替えて
あげようか?

ここに居る子
が欲しいし

ふむ

君が作った
中の薬いよ

はま

は

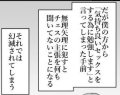
やべえな
コイツ



そんな
つまらない事で
幻滅されたくはない

ふふ

だから約束と
違う事がない様に
耐えに耐えた



だが僕の方から
「気持ち良いセツクスを
する為には勉強します」と
言っってしまった手前
無理矢理に犯すと
チエスの主張を何も
聞いてないことになる

それでは
幻滅されてしまう



その間に何度チエスを
襲いそうになったことか……

そんなこんなで
苦勞の本！

薬は
遂に完成した



チエス ようやく君に
快楽を教える
時が来ました

チエスの叔
「うわ！
ついに来た」って
思っているな

だがそう思えるのも
今のうちだけさ



君は僕の誘いを
断らない
断れないんだ

流されやすい
君の為に何を
言えば良いかも
わかっている

まずはチエスに
今までの行動について
説明する

そして
チエスの発言を
受けて自分なりに
どうにかしようと
努力した事も...

勿論わざと
しょぼくした演技を
してね



「断けないが私には
チエスが必要だ」
チエスでなければ
駄目だ」と

チエスの良心に
訴えかける

よしよし
効いているな...

後は臂み掛けだ





ほらね

チエスが僕の
お願いを断ることはない

絶対にね



娯楽は
夕食のスープに
混ぜて……

分量は様子見で
少し薄めにして……

あとは
調味料とワインで
味を整えたら
特性スープの完成！

ついでに
飲み物には
酒を混ぜる

混ぜると言っても
ほんの少し……
ちよつとだけ
混ぜさせる
ぐらいの量だが

そうした方が
心地良い感覚に
陥りやすいだろ
う

ほか

ほか

よし
これならチェスも
美味しく食べれる

おいしい……

フェルメート、
体染つたよ

私も染って
きますね

夕食作って
おいたので

重事を済ませたら
私の部屋で待つて
いてくださいわ

さつさと
体洗おうっと

スッ……

よしよし
普通に
食べてくれている

ちんちん

ちんちん





ふふっ
スヤスヤ寝ていて
可愛いー



くさ

なんて幸せそうな
顔だろ

まるでこの世の穢れなど
知らないような寝顔だ



さあ
今から共に
夢を見ようじゃないか

とびきり
淫靡な夢を！



もつとも
僕にとつては
楽しい夢だが

君にしてみれば
新たな悪夢の始まりに
過ぎないのだろう

だがそんな事は
どうでもいい

僕が幸せであれば
のだから
つて構わない

起きてください

オエス

※後編へ続きます

閲覧ありがとうございました！



↑こんな感じで、ただひたすら
パコパコしてるだけの後編を
今現在描いてます～